2018年度 日本学校教育学会 海外スタディツアー 研究報告書

## 南京・馬鞍山 スタディツアー

## 記録と論考



日本学校教育学会·国際交流委員会 編

## 目 次

はじめに 2018年度日本学校教育学会スタディツアー -東アジアの学校教育の探求(中国の馬鞍山・南京)	佐々木 幸寿	1
2018年度スタディツアーの概要(日程・参加者等)	釜田 聡 牛 志奎	6
南京・馬鞍山スタディツアーの記録		
中国高速鉄道と上海の街	中山 博夫	9
陶行知記念館	中山 博夫	13
安徽省馬鞍山市 南山区教育局及び 馬鞍山四村小学校深業分校	牛 玄神永 典郎	19
中学校における総合的な学習の時間・生徒指導 ・特別活動の日中比較 一馬鞍山市第八中学校と南山区教育局の事例から一	林 尚 示	25
万達城教育モールと馬鞍山市少年宮新三館	藤田 麻里絵	31
南京暁庄学院附属小学校の授業実践と考察	山野井 純子	37
南京師範大学学術交流会	蒋 小 翠	43
南京大虐殺記念館と南京市内訪問	神永 典郎	47
侵華日軍南京大虐殺遭難同胞記念館の見学から考えたこと 一日本と中国の相互理解のために―	周勝男	51
編集後記	釜田 聡	55

## 2018年日本学校教育学会スタディツアー -東アジアの学校教育の探求(中国の馬鞍山市・南京市)-

会長 佐々木幸寿

#### はじめに

2018年の日本学校教育学会スタディツアーが2018年12月26日(水)~12月30日(日)の日程で、中華人民共和国の馬鞍山市、南京市を中心に行われた。ツアー全体のコーディネーターを中山博夫国際交流委員会副委員長(目白大学教授)、現地コーディネーターを牛志奎国際交流委員会委員(馬鞍山師範高等専科学校教師教育系教授)に務めていただき、現地の小学校、中学校等の学校訪問、行政機関訪問、南京師範大学教育科学学院との研究会など、大きな成果を上げて帰国することができた。

参加者した10名の訪問団は、大学研究者、高校教員、博士課程学生、修士課程学生など、総合学会である本学会の特性を反映した構成であった。学校訪問、学術研究交流においては、参加者からは様々な視点からの発表や意見交換がなされ、本学会にとっても、各会員にとっても、有意義なスタディツアーとなったものと思われる。

#### I 学術研究交流を中心としたスタディツアーへの転換

2018年度のスタディツアーの最大の特徴は、現地における研究者、学生との合同研究会を開催したことである。



【南京師範大学と日本学校教育学会の合同研究会】

合同研究会では、はじめに、張新平南京師範大学教授から心のこもった歓迎の挨拶があった。その後、本学会から、佐々木幸寿(東京学芸大学)、林尚示会員(東京学芸大学)、 牛玄会員(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科(博士課程))、周勝男会員(兵庫教 育大学大学院連合学校教育学研究科(博士課程))が発表し、南京師範大学からは、程晋宽教授(南京師範大学)、叶忠教授(南京師範大学)、顾秀林氏(南京師範大学博士課程学生)、李华氏(南京師範大学博士課程学生)が発表した。その後、研究発表に基づいて質疑応答、意見交換を行った。

本学会における海外スタディツアーにおいては、はじめての本格的な学術交流であり、相互の研究の発展に大きく寄与する内容であった。本学会は、2019年から第二の学会機関紙として「年報」を発行することとなっている。スタディツアーにおける研究会活動の成果を新たに発行される年報に反映させていくことで、本学会の研究活動はさらに大きく発展するものと思われる。

また、この合同研究会の内容については、南京師範大学のホームページにおいて大きく報じられるなど、南京師範大学にとっても大きな意義を持つものであったことが示唆されており、大学や学会において学術交流のもつインパクトの大きさを改めて感じた。以下の南京師範大学のホームページのURLを記載するので、是非参照していただきたい。(URL: https://mp.weixin.qq.com/s/V9cJTWiGy4CQWMigUUJR2w)



【南京師範大学における研究協議に参加した研究者、博士課程学生】

#### Ⅱ 大きく変化する中国の学校教育を知る

今回のスタディツアーでは、南京暁荘師範学院付属小学校、馬鞍山市第八中学校、馬鞍山市四村小学校の3つの学校を訪問した。いずれの学校においても、教師の指導意欲、児童生徒の規律が高く維持されており、授業に集中している様子が見られた。また、授業内容も高度で、優れた指導法を採用するなど、授業展開の効率と児童生徒のパフォーマンス

## の高さが印象的であった。



【馬鞍山市四村小学校における4年生英語のハイレベルな実践的授業】



【陶行知の思想を生かした教育活動を展開する南京暁荘師範学院付属小学校】



【馬鞍山市第八中学校において高度に展開される少年宮活動について説明を受ける】

それぞれの学校において印象に残った特徴について述べる。馬鞍山市四村小学校においては4年生英語の授業を参観した。英語の実践力に重点をおいて教育活動が展開されており、教師の指導レベル、児童の英語能力は、一般的な日本の小学校と比較して非常に高度な水準にあるように思われる。学校教育の成果であるだけでなく、塾など家庭の教育への投資も影響しているものと推測される。

また、南京暁荘師範学院付属小学校では、近代中国の教育家である陶行知の思想を生か した教育活動を展開していた。陶行知は、1927年南京郊外に暁荘師範学校を設立し、経験 主義的な教育を行ったが、同校では、陶行知の考え方を継承し、時代に合わせた形で、芸 術活動、科学技術教育などにも力を入れた教育を展開している。

馬鞍山市第八中学校においては、高度に展開されている少年宮の活動が印象的であった。 少年宮とは、中国の各地に設置されている子供たちの課外活動用の施設で、近年は学校内 に設置されており、正規の授業以外にも、科学教育、芸術活動などさまざまな活動に利用 されている。第八中学校では、指導者の水準が高く、また、広い活動場所や展示スペース をもうけるなど施設も充実していた。

#### Ⅲ 教育行政機関の訪問

馬鞍山市の雨山区教育局を訪問する機会を得た。鞍山市の教育行政は、市の教育行政当 局の統括の下に、4 つの区教育局が位置づけられている。区教育局は、小学校、中学校を所 管している(高等学校は、市レベルで所管している)。

教育局の教育行政の方針に基づいて、新たな幼児教育施策、素養教育(思想、道徳等) や学力の重視、知徳体のバランスを重視した教育施策を展開していることなどが説明された。



【童教育局長から教育行政の仕組み、教育方針等について説明を受ける】

#### Ⅳ 学会の力量が問われるスタディツアー(学術交流)

日本学校教育学会におけるスタディツアーは、東アジアを中心に多くの国や地域を訪問してきた。本学会において、現地を訪問し、学校教育や教育行政の現状に触れることは、学会活動や会員による研究活動、学校における教育実践に非常に大きな意義をもたらしてきたと言える。

本学会における長いスタディツアーの歴史の中で、2018年の馬鞍山市、南京市への訪問は、大きな転換点となるものであるように思われる。南京師範大学との学術交流において、研究者、博士課程学生が自身の最新の研究成果を報告しあい、熱心に議論が展開された。合同研究会後には、先方の研究者、博士課程学生からも交流の継続を望む声が寄せられた。

このことは、本学会に対して、重要な課題を投げかけているものと思われる。学術交流の導入は、本学会の基本的理念である「理論と実践の往還」に応える研究や実践を、国際的な水準で発信し続けることが求められることを意味しているということである。また、本学会の海外における本格的な活動の展開に向けて、海外に会員のネットワークを形成していくことが重要な課題となるものと思われ、その拠点となる人材、教育研究機関を確保していくことが必要となるものと考えられる。

## 2018年 日本学校教育学会スタディツアー

## - 東アジアの学校教育の探究(南京市・馬鞍山市) -

#### 1 日程・方面

- (1)日 程 2018年 (平成30年) 12月26日 (水) ~12月30日 (日) 4泊5日
- (2)方 面 中華人民共和国 馬鞍山市・南京市

#### 2 募集人員・参加資格

- (1)募集人員 10名程度 (定員になり次第締め切らせていただきます)
- (2)参加資格 日本学校教育学会会員, 学会員の推薦がある場合は非会員でも可。

#### 3 主な日程

月日	時間	主な予定	備考	宿泊等
12月26日(水)	8:00 10:00 12:25 13:00 13:15 15:52 18:24	羽田空港国際線ANAカウンター前集合 羽田空港発 上海虹橋空港着 上海虹橋駅へ移動 上海虹橋駅発 チケット受取 上海虹橋駅発 (中山先生グループ) 馬鞍山東駅着 (中山先生グループ)	チェックインを済ませて集合してください。 NH969 中山先生グループと藤田さん合流 高鉄 (新幹線) 到着後タクシー	中山先生グループ
	19:00 19:30	馬鞍山師範到着 ホテルロビー集合 夕食会	佐々木先生・牛玄さん遅れて到着	馬鞍山海外海酒店 马鞍山市花山区花雨路99 0555-2388888
12月27日(木)	8:00 12:00 13:00 17:30 18:00	出発 馬鞍山市四村小学校 馬鞍山第八中学校 昼食 万達城教育モール 少年宮 (新山舘) ホテル着 夕食会	交通手段と訪問の順番等は変更の可 能性あり。	馬鞍山海外海酒店 与較山中化山区化附路99 20555-2388888
12月28日(金)	7:30 8:30 12:30 13:30 14:00 14:30 18:00 20:30	出発 南京暁荘師範学院(付属学校国際部)着 南京暁荘師範学院(付属学校国際部)訪問 昼食 移動 南京師範大学(随園)着 研究協議会開始 研究協議会終了,夕食会場へ移動 夕食会 ホテル着	交通手段と訪問の順番等は変更の可能性あり。 12月27日(木)へ移動	南京金陵? 店
12月29日(土)	8:00 9:00 12:30 13:30 14:30 15:49 17:53	ホテル発 南京市内訪問(南京の記念館等) 昼食 高鉄駅(南京南駅)へ移動 高鉄駅(南京南駅)着 上海へ移動(中山先生グループ) 上?虹橋駅着(中山先生グループ) ホテル着	全体での解散会 高鉄 (新幹線) 地下鉄にて移動	「南京」で解散後は、各 グループで高鉄に乗り、 上海のホテルまで移動
12月30日(日)	11:30 13:40 17:25	自由行動 上海虹橋空港着 上海虹橋空港発 羽田空港着	13:00搭乗予定 到着後解散式,解散	中山先生グループ

#### 4 費用(概算)

(1) 航空費 実費 日本-上海虹橋空港(往復)

(2)ホテル代 約4万円(1泊1万円程度,4泊:馬鞍山市・南京市)

(3) 現地交通費 約2万円 (新幹線やタクシー等)

(4)謝金等 約1万円程度

(5) その他 現地食事代,その他 ※往復航空券は,各自で手配をお願い致します。

#### 5 参加者

#### 2018年度 日本学校教育学会台湾スタディツアー参加者名簿

	氏 名	所属	分 担 等
1	佐々木 幸寿	東京学芸大学	会長
2	中山 博夫	目白大学	国際交流委員会副委員長
3	牛 志奎	馬鞍山師範高等専科学校	国際交流委員会委員
4	蒋 小翠	目白大学学生(学部)	通訳
5	林 尚示	東京学芸大学	
6	周 勝男	兵庫教育大学連合大学院 博士課程	通訳
7	藤田 麻里絵	上越教育大学大学院生(修士)	報告書担当
8	神永 典郎	白百合女子大学	
9	山野井 純子	川口北高校	
10	牛 玄	東京学芸大学 博士課程	通訳

#### 6 その他

(1) スタディツアーの責任者 中山博夫

(2) 現地コーディネーター 牛 志奎

(3) 現地通訳·研究会等 牛 玄 周勝男 蒋小翠

(4) スタディツアー窓口 釜田 聡

(5)会計担当 小池 由美子

# 南京・馬鞍山 スタディツアーの記録

#### 中国高速鉄道と上海の街

中山 博夫(目白大学)

#### 1. 驚きの中国高速鉄道

年の暮れの寒さの中で降り立った上海虹橋国際空港(シャンハイホンチャオ国際空港)は、巨大なハブ空港でした。1999年に上海浦東国際空港(シャンハイプードン国際空港)が開港してから2007年までは国内線専用空港だったと聞いていましたので、もう少し規模の小さな空港を思い浮かべていましたが、予想は外れたわけです。地下鉄で上海虹橋駅に向かったのですが、日本の地下鉄とは異なり、手荷物のX線検査がありました。驚きではありましたが、新幹線内での焼身自殺事件などを思い出しますと、日本人は安全神話の中でまどろんでいるのではないかと思えてきました。

上海虹橋駅に到着しましたが、ここでも驚きの連続でした。まるで空港のように巨大な駅なのです。年末の混雑がピークになる時季であるため、中国人留学生の蒋小翠さんに頼んで、いっしょに移動するツアー参加者の安徽省の馬鞍山東駅までの高速鉄道の切符を予約してもらっていました。切符を入手できない心配はなかったのですが、切符売り場を探すのも一苦労でした。とにかく広いのです。そして、人がいっぱいなのです。切符売り場上部の電光掲示には、切符の売り切れなどが表示されています。切符が手にはいると、次にまた当然ながら手荷物のX線検査をしてから待合いロビーへと移動します。そこにも実に広い空間が広がっていたのですが、乗客でとても込み合っていました。そこには、プラットフォームにつながるゲートがいくつも並んでおり、ゲートの上には列車の発車時刻を示す電工掲示版があります。そして、ゲートは発車の20分ぐらい前にならないと開かないのです。まるで空港のようだとは思いませんか。プラットフォームには静かに列車が停止していました。1等の指定席に座るとやっと落ち着いた気分になったのですが、それも東の間で座席で大きな声をあげて携帯電話で通話している人たちに悩まされる高速鉄道の旅が始まったのでした。本当に驚きの連続でした。



[高鉄切符売り場]

「上海虹橋駅待合ロビー」



[中国高速鉄道]

#### 2. 中国の繁栄の象徴の街 上海

5日間のスタディツアーの4日目の夜に、南京南駅から上海虹橋駅まで高速鉄道で移動しました。上海に到着した頃にはもう外は暗くなっていました。上海市内で一泊して、翌日の朝、上海虹橋国際空港に向かう前に外灘(ワイタン)に出かけました。

外灘は歴史的な街です。1842年のアヘン戦争を終結させた南京条約により、上海は自由 貿易港として開港しました。そして、それを契機としてイギリスやフランス、アメリカ合衆国などの上海租界が形成されていきました。租界とは、清国、そして後の中華民国につくられた外国人居留地です。行政自治権や治外法権を有していました。外灘は、はじめはイギリスの租界だったのですが、1854年にイギリスとアメリカ合衆国が合同して両国の共同租界になりました。日清戦争の後には、外国企業の投資ブームもあって、上海は中国最大の都市へと発展していったのです。そして、イギリス系金融機関である香港上海銀行を中心として、中国金融の中心地として発展していきました。外灘には、1940年代までは中華民国で活動していた銀行のほとんどの本店が集中していたそうです。でも、中華人民共和国の建国とともに、金融機関は外灘から移転していきました。しかし、中国が市場経済を導入する過程において、外灘には金融機関が再び戻ってきたのだそうです。

上海南京東路を歩くと、大きなデパートや高級ブランドショップ、レストラン、歴史のあるホテルなどが立ち並んでいます。その経済発展の様子には目をみはるものがありました。まさに中国共産党が指導する「資本主義」を代表する街といった偉容です。上海市内を流れる黄浦江(コウホコウ)に向かって歩いていくと、ヨーロッパ調の風格のある銀行などの歴史的建造物を目にすることができました。黄浦江に沿って歩いていくと、対岸によくテレビなどで見かける東方明珠電子塔や高層ビル群が林立していました。東方明珠電子塔は高さが約468メートルもあり、展望台も3つあるそうです。世界一の高さ634メートルを誇る日本のスカイツリーほどの高さはないのですが、その姿はインパクトのあるものでした。高層ビル群をバックに記念写真を撮りましたが、曇っていて青空でないことが残念でした。

上海での体験は、巨大な上海虹橋空港、空港のような上海虹橋駅、経済発展を誇る上海の街並みなど、驚きの連続でした。上海での滞在時間が短いために、有名な外灘の夜景を楽しむことも、他の場所に行くこともできませんでした。また、上海ガニなどの上海の有名料理も味わうこともできませんでした。最終日の朝食には、何と日本の牛丼チェーン店で中華丼を食べたのです。

次に上海を訪問する機会がありましたら、3年前の日本学校教育学会スタディツアーの

ように学校訪問もしたいですし、もう少しゆっくりと上海の街を歩いてみたいと思いました。もちろん上海料理も満喫したいと思います。拙いですが、これで上海についての報告を終わります。



[上海南京東路]

[東方明珠電子塔と高層ビル群]

#### 陶行知記念館

中山 博夫(目白大学)

#### 1. 陶行知記念館

スタディツアー2 日目の朝一番の訪問先は、陶行知記念館でした。恥ずかしながら、中国近代教育をけん引した教育思想家、教育実践家である陶行知のことを、私は名前ぐらいしか知りませんでした。私は教育学を専門としているわけですが、自分の枠の狭さに恥ずかしくなってしまいました。それとともに、新たな学びの対象を得る喜びも感じました。

貸し切りバスを降りて歩いて行きますと、風格のある陶行知記念館の門標がありました。その先の階段を上ったところに特徴的な屋根の記念館の玄関があり、その両翼に展示室を備えた平屋の建物がありました。記念館の職員の方が待っていてくれて案内してくださいました。もうお一方、南京暁庄学院附属小学校の魯照斌校長先生も付き添ってくださいました。記念館の玄関を入ると、陶行知の像が出迎えてくれました。陶行知の教育思想は、記念館の壁面に掲げられた「生活即教育」「社会即学校」「教学做合一」の三つの言葉に集約されるようです。陶行知とは、いったいどんな人物なのでしょうか。そして、陶行知の教育思想とは、どのようなものなのでしょうか。



[陶行記念館門標]

[陶行知記念館]

#### 2. 陶行知の生きた時代

陶行知は1891年に生まれ、1946年に亡くなっています。1891年は、日清戦争が始まる3年前の年でした。1946年は、日本の無条件降伏によって太平洋戦争が終結した1年後の年であり、中華人民共和国が成立する3年前の年です。

19世紀初頭にイギリスはインドの農民にケシを栽培させ、アヘンをつくり中国に密輸させていました。それは中国から銀を吸い上げ、アヘン中毒者を激増させたのです。当時の清王朝はアヘンの中国国内への持ち込みを防ごうとしましたが、それはアヘン戦争(1840年)の勃発を招きました。アヘン戦争は、1842年の南京条約の締結によって終結しましたが、それは中国にとって屈辱の百年の幕開でした。香港をイギリスに割譲し、広東・厦門・福州・寧波・上海を開港しなければならなくなったのです。さらに、治外法権を認める条約も結ばれました。そのような条約を、イギリスだけではなくフランスやアメリカ合衆国とも結ばなければならなくなり、中国は半植民地化へと坂道を転げ落ちていったのです。

アヘン戦争の賠償金支払いのために国民の負担は増し、不満は充満するようになっていきました。それは、経済的な平等を求める太平天国の乱(1851年-1864)につながっていきました。中国は、欧米列強の半植民地として蝕まれていったのです。そこに遅れて参入したのが日本だったのです。日本は朝鮮半島での権益を拡大していこうとして、清王朝と対立するようになりました。そして、1894年に日清戦争が勃発しました。陶行知が生まれて3年後の年です。

日清戦争後の下関条約(1895年)によって日本に遼東半島が割譲されることが決まりましたが、満州・朝鮮半島への進出を狙うロシアはフランス、ドイツを誘い三国干渉を行い、その結果、日本は遼東半島を中国に返還することになりました。それ以後、中国は欧米の列強による利権争奪の草刈り場となったのです。中国民衆の苦悩は高まるばかりでした。

陶行知が生まれた頃には、欧米の半植民地化が進み、その半植民地化レースに日本も乗り出してきたのです。欧米列強や日本による利権争奪、そして大衆の苦しみと混乱が渦巻く時代に、陶行知は生まれたのです。陶行知の生活教育思想は、そんな時代に生きる中国一般大衆を育てるものだったのではないでしょうか。

日本は日露戦争(1904年-1905年)を経て、1910年には朝鮮半島を併合してしまいました。中国革命の父と呼ばれる孫文は、民主的共和国建設を目指して、辛亥革命(1911年)を起こしました。そして1912年には、清王朝は滅び中華民国が成立したのです。でも、その政府は脆弱なものでした。そのため、各地の軍閥が混戦する時代になってしまったのです。日本は朝鮮半島の次に、中国での利権拡大をねらっていました。1932年には、満州を日本の傀儡国家である満州国として独立させました。中華民国の国民党政府は、日本の動きに対処しなければなりませんでした。それとともに、その頃勢力を拡大してきた中国共産党討伐にも力を入れなければならなかったのです。

日本の中国に対する軍事的・経済的支配の強化は、中華民国の国民党政府と中国共産党との合作による抗日民族統一戦線の結成へと繋がっていきました。そして、1937年に中国と日本は全面戦争へと突入してしまいました。日本は広大な中国大陸にズルズルとはまり込んでしまい、戦局は泥沼状態になっていったのです。

陶行知の教育思想と教育実践は、欧米の列強と日本の利権争奪戦、社会の矛盾と貧困に苦しむ大衆、革命、そして抗日民族統一戦線の結成と抗日戦争といった社会情勢を背景として生まれたのです。



[陶行知の像]

#### 3. 陶行知の生涯と教育思想

陶行知記念館の中は、彼の生涯に沿って七つのセクションがあります。「青少年時期」、「教育改革と平民教育の提唱」、「郷村教育と暁庄師範学校」、「教育の普及と工学団」、「国難教育と海外における抗日宣伝活動」、「抗日教育と育才学校」、「民主教育と社会大学」の七つのセクションです。そこには、写真・解説のパネルが掲示され、陶行知に関係する資料が展示されていました。陶行知記念館でいただいた冊子『行知園』(南京暁庄学院・江蘇省陶行知記念館・江蘇省陶行知研究会編集)とその他の資料を参考にして、記念館の各セクションに沿って陶行知の生涯と教育思想を紹介したいと思います。

#### (1) 青少年期(1891年-1917年)

陶行知は 1891 年 10 月 18 日に、安徽省にある農村の貧しい家庭に生まれました。中国の伝統的な私塾、ミッションスクールで学んだ後に、南京にあるミッション系大学である金陵大学で学んでいます。金陵大学では、王陽明の思想に傾倒していたそうです。金陵大学を卒業し、1914 年にアメリカ合衆国に渡り、初めイリノイ大学で学び次にコロンビア大学で学んでいます。その頃、デューイやキルパトリックと交流がありました。1917 年の夏に、彼は博士号取得の誘いを断って中国に帰国したそうです。陶行知が留学した時期は、清王朝が滅び中華民国が成立した頃でした。

#### (2) 教育改革と平民教育の提唱(1917-1926年)

1917年には、陶行知は26歳で南京高等師範学校の教授になりました。彼は教師主体で行われる知識注入型の伝統的な教育を批判して、学生を主体とした教育を行おうとしたそうです。そして、貧しく旧制度の只中にある中国を救うためには、教育はどうあるべきかを考えるようになったそうです。

1919年に、デューイが中国を訪問しました。日本各地での哲学を中心とした講演を終えて、デューイが上海に到着したのは4月30日でした。欧米への留学経験がある人たちがデューイを出迎えたそうです。陶行知もその中の一人でした。デューイが上海に到着した4月30日は、五四運動が勃発する4日前です。五四運動とは、北京で学生が敢行した反日示威運動とそれに続く全国各地で展開された一連の愛国運動のことです。五四運動は、大衆運動の力によって、政府にベルサイユ条約調印を拒否させた愛国運動です。

デューイは、中国に滞在した2年2か月ほどの間に、平民主義教育についての講演を精力的に行ったそうです。平民主義教育とは、それまで学校教育から疎外されてきた一般大衆を学校教育に取り込み、知識注入型の教育方法を廃し、子どもの自発性・自主性に基づく学習活動を刺激する教育方法を推奨するものでした。

陶行知は、五四運動とデューイの説く平民主義教育から大きな影響を受けたようです。 1921 年に中華教育改進社が結成され、陶行知は主任幹事になりました。そして、雑誌『新教育』の編集を担当しました。1923 年には中華平民教育促進会が成立し、陶行知は理事になっています。

同じ1923年に、陶行知は安徽公立学校を設立しました。その校訓は、「道徳は、後々に 恩恵をもってすべての人の上に及ぶものと考えられる、美徳は尊重され欠点は許される」 というものでした。

#### (3) 郷村教育と暁庄師範学校(1926年-1930年)

1926 年、陶行知は郷村(農村)教育に目を向けました。彼は、中国における郷村教育の根本的な改革をどうすべきかを考えました。そして、政府は農民に知識を普及していく郷

村教育を実施しなければならないと指摘しました。1927年、陶行知は暁庄師範学校を設立して、「農民の手腕」「農民の頭脳」「社会改造の精神」を持った郷村教師を養成しようとしました。

このセクションには、陶行知の思想の根幹である「生活即教育」「社会即学校」「教学做合一」の言葉のパネルが掲げられています。郷村に即した経験主義の教育を行おうとしたことが伝わってくると思います。デューイの影響が大きかったのだと感じました。彼は郷村教育を通して、郷村を改造していこうとしたのだと考えました。

その後、暁庄師範学校は中国共産党の指導する農民運動の影響を受けました。そのため、 国民党政府は暁庄師範学校に閉鎖を命じました。1930年のことでした。その年の秋に、校 長である陶行知は国民党政府に指名手配され、日本亡命を余儀なくされたのです。

#### (4) 教育の普及と工学団 (1931年-1935年)

1931年に陶行知は中国に戻り、上海に潜伏しました。彼は、中国の伝統的な教育における知識と労働の乖離を批判し、手と頭脳を結合して新しい価値を創造する科学的な人間を育てることを提唱しました。そして、工学団を開設して実践を進めていったのです。陳淑敏(2003年)によると、「工」は仕事、「学」は科学、「団」は集団を意味するとあります。そこでは、労働を通した教育が実践されていたのです。工学団では、小先生活動を採用していました。子どもが教師の役割を担うものであったそうです。

#### (5) 国難教育と海外における抗日宣伝活動(1936年-1938年)

1936年、陶行知は全国各界救国連合会の要請を受けて、中国大衆の抗日救国の闘いを世界の人々に知らせる抗日宣伝活動の旅に出かけることになりました。2年間でヨーロッパ、アメリカ合衆国、アジア、アフリカの28の国と地域を回ってきました。1937年に中国と日本は全面戦争に突入しました。そんな時代に、陶行知は世界を回って中国大衆の苦しみと抗日救国の闘いを宣伝して歩いたのでした。

#### (6) 抗日教育と育才学校(1938年-1945年)

1938年の秋に、陶行知はイギリス領である香港まで戻り、日本との全面戦争下にある中国に帰国しました。彼の教育運動の目的の一つは、抗日戦争に勝利するための人材を育成することでした。1939年、陶行知は中国共産党の支持を得て育才学校を設立しました。育才学校とは、抗戦建国の人材を育てようという学校でした。日本を打ち負かし、新しい中国を打ち建てる人材を育てようとしたのです。

#### (7) 民主教育と社会大学(1945年-1046年)

陶行知は、民族解放の統一戦線を基盤とした民主主義を提唱するようになりました。そのために、社会大学を開設しました。それは、重慶市民の夜間講座を母胎としており、彼の考える民主主義を実現するためのものでした。育才学校の実践を大人にまで拡大したものと考えてよさそうです。このセクションで、スタディツアーに参加した中国人留学生が、「彼はマルクス大好きですよ」と話していたことが印象に残っています。そこには、マルクスではなく、毛沢東と並ぶ陶行知の写真が展示されていました。

太平洋戦争が終結した翌1946年、陶行知は静かにこの世を去りました。



[毛沢東と陶行知]

#### 4. 未来に向けて

陶行知の生涯と教育思想を、彼の生きた時代を背景として概観してみました。彼の教育思想は、デューイの影響を受けた生活教育であり、農民や大衆の生活と結びつき、農民や大衆を解放し、新しい中国を建設しようというものでした。そこから私たちが学ぶことは多いと思いました。そして過去を振り返り、中国と日本の両国が平和な未来を拓くため教育を求めていきたいと強く思いました。

#### 【参考文献】

陳淑敏「「工学団」時期における陶行知の「小先生制」についての考察」 『京都大学 臨床教育人間学』5、2003 年

南京暁庄学院・江蘇省陶行知記念館・江蘇省陶行知研究会編『行知園』 牧野篤『中国近代級育の思想的展開と特質』日本図書センター、1993 年

#### 安徽省馬鞍山市雨山区教育局及び馬鞍山市四村小学校深業分校

牛 玄 (東京学芸大学大学院博士) 神永典郎(白百合女子大学)

#### 1 はじめに

2018年12月28日、スタディツアー3日目、午前中に、安徽省馬鞍山市雨山区教育局を訪問し、午後に馬鞍山市四村小学校深業分校を見学した。

この訪問の目的は、中国の都市部における教育局の組織系統を知り、仕事内容を理解するとともに、中国の都市部の小学校の学習状況や授業の様子などを確認し、スタディツアーのメンバーたちが関心を持っている事項について、教育局職員や小学校の校長などから現在の状況について話しを聞き、意見交流を行うことであった。

#### 2 訪問の経過と調査内容

#### (1)雨山区教育局

① 当日訪問を受けてくれた雨山区教育局のメンバーと教育局局長の履歴

28日午前中、馬鞍市雨山区教育局を訪問した。教育局では、局長の童朝玉(女性),中 国共産党支部委員会書記の楊家明(男性),教育研究室主任の鲍氏と副主任の楊氏たちが 我々の訪問を受けてくれた。そして,主に童局長から、自分の経歴と雨山区教育局の状況や 区の教育の現状などについて説明を受けた。

それによると、童氏(女性)の経歴は、1986年に師範専攻を卒業後、小学校に就職したが、数か月後に別の区の教育局の団委に移動となった。それから教育局で一般職(団委、財務など)を16年間務めた。その後、ある郷(町村レベル)に「掛け職」(公務員を下級部門に仕事を任して、籍は元の部門に所属し、公務員の能力などを鍛える一つの方法)として2年間に勤務をし、1999年から教育局副局長になった。しかし、当時雨山区では管理職が満員の状態だったため、雨山区での仕事を待つことになったが、それから3か月後、ある郷の副郷長に就任した。また、その後も郷の共産党委員会の副書記、紀律委員会の書記などに就任し、2008年11月に雨山区に戻って、区の障碍者連合会理事長3年間勤めて、2012年2月より雨山区教育局の局長に就任した。

このように童氏は、多様な行政経験を持つ行政の専門家と言える。

#### ② 雨山区教育局の組織体制

雨山区教育局は、局長、共産党委員会書記、副局長を中心に、教育研究室の13人と 学校現場から借りて来ている17人を合わせて総勢33人の組織となっている。

③ 雨山区教育局管内の教育の現状についての説明と本訪問団との質疑応答の内容 次ページから「雨山区教育局管内の教育に関する現状」について(表1)と、我々日 本学校教育学会の「本訪問団と雨山区教育局との質疑応答の主な内容」についての記録 (表2)を表にまとめたものを示す。

この2つの表が、雨山区教育局への訪問のまとめである。

表1 雨山区教育局管内の教育に関する現状

教育	数など	現状	その他
段階			
就学前	公立4校,	<ul><li>・2010年に国務院から出された</li></ul>	・公立幼稚園の保育費は
教育	国営企業	「現在の学前教育の発展に関する若干	月300元(約5000
(幼児	立6校,	意見」の趣旨に基づいて,2011年	円)である。
教育)	私立31校,	から2013年まで公立幼稚園は0	・私立幼稚園は一番高い
	6 4 0 0 人	~4か所となった。	場合は月2300元(約
	余り	・普恵性幼稚園81%である。政府か	38000円)である。
		ら補助があるため月600元(約10	
		000円)一人以下の保教費が徴収し	
		ている。	
小学校	12校	・近年市政府と区政府の投入は4億元	・学力向上を中心としな
教育		であった。ICTの整備, 運動場のリ	がら, 徳智体美労の全面
		フォームなどが行った。	育成を目指している。
		・「立徳樹人」を任務とし、素質教育	
		を展開している。	
中学校	5校	・2009年から管理職権限は市教育	・一つの公立寄宿中学校
教育		局から区教育局の管理となった	を設置した。寮費は半年
		・多様な改革をした。(右側参照)	300元(約5000円)
			である。
			・小中一貫校も設置し
			た。
			・小中一体化と学生を外
			に流出しないように大学
			区改革を行った。

表2 本訪問団と雨山区教育局との質疑応答の主な内容

質問者	質問	回答の要点
佐々木会長	①素質教育→自主的活動(八中の少年宮み	①少年宮はもう一つの受け
	たいに自分の興味関心によって参加して	皿, 部活のように展開して
	いる)。	いる。
林会員	②教育に関する予算は、公開されているの	②公開していない。
	カュ。	
神永会員	③四つの幼稚園が一気にできた理由。入	③国の政策
	園率。	127%(戸籍が別の地域
	④中央政府が幼児教育に力を入れている	に属する子どもたちも入園
	理由は何。	している)
		④牛志奎:教育を受ける機
		会を保障するため

中山会員	⑤私立幼稚園の小学校化傾向があるが,	⑤原則に禁止しているが,
蒋会員	今の公立幼稚園はこういう問題があるの	幼小連携のためにやってい
	カ。	る部分がある。私立は規定
		を違反している可能性があ
		る。罰則規定もある(開園資
		格の取り消しなど)。
牛会員	⑥局長,副局長,党委書記の教育に関す	⑥ない。教育研究室主任,副
	る履歴などの資格要求とかあるのか。	主任は学校現場経験の豊か
	⑦日本みたいに,教育局(教育委員会)	な先生であった。
	のメンバーは地域の住民がいるのか。	
		<b>⑦いない。</b>
周会員	⑧小中学校の国際化教育はどういう状況	⑧2014年前に英語教
	にあるのか。	員,管理職など外国に行っ
	⑨少数民族に対する教育はどういう状況	たことがある。近年はほぼ
	であるか。	ない。
		⑨馬鞍山市内に新疆クラス
		などがある。
童局長から	⑩日本の義務教育は何年間であるか。	佐々木会長:
	⑪義務教育段階は公立と私立両方あるの	⑩9年。小学校から中学校
	①義務教育段階は公立と私立両方あるの か。	⑩9年。小学校から中学校 まで。



#### (2) 馬鞍山市「四村小学校深業分校の見学

ここからは、馬鞍山市四村小学校深業分校の見学と その成果を紹介する。

#### 図4 馬鞍山市 四村小学校 深業分校の校門 →

#### ① レベル高い英語教育

訪問当日に参観した4年 生の英語の授業は、中国の 都市部小学校の英語教育は 非常に高いレベルで行われ ていることを我々に認識さ せることになった。

まず、教員の授業の進め



方は発音や質問に応答する活動を連続させ、非常にアクティブな授業であることを感じさせた。(ア) すべての児童には英語の名前がつけられていて、授業中はその英語の名前を使ってやり取りをしている。(イ) 児童はテキストにあるロールプレイングの会話練習を教室前面の教壇の上に出て演じていた(4人~6人が一つのグループとなって役割分担)。(ウ) テキストの内容を良い発音で読むことができたら、褒美としてキャンディを与えて動機付けを行っていた。



#### ←図 5

教壇前のロールプレイン グ会話練習の様子

(黒板には電子黒板が備 え付けられ、教材提示に 使用されている。)

また、教師と児童の英語 の発音はきれいで、児童は 発音だけでなく,文法など もよく理解し運用している ように感じられた。

参観時に,この授業の担 当教員は欧米に留学した経 験があるかどうか疑問を持 ち、後の懇談で校長に諮問

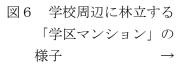
したら、普通の師範学校の英語専攻を卒業した教員であるという答えであった。加えて 児童の高いレベルの英語力はどのように育成されているのかについて質問すると、やは り学校の授業による学習だけでなく、児童が以前から英語の塾など通っているのだとい う説明があった。

#### ② 校長からの四村小学校深業分校についての紹介

ア 当地の有名校の分校として開設された学校である

学校の校舎は隣接するマンション群を開発した不動産会社が作った。入学のための条件として、この学校に入るためは学校周辺のマンションを買わなければならないことになっている。これは、中国のいわゆる「学区マンション」と呼ばれるものである。

この深業分校の教員は、 四村小学校本校当地の有運 校)から異動してきて運業 されているため、こので 分校にも入学希望そのため どん増えている。そのため マンションの値段も高区マンションの 維持され、毎年、巡って 継持され、 第入を巡って じ引きの形で入学者を している状況となって る。





イ 様々な学習を実現するプログラム (課程) の開発に力を入れている 小学校の教育課程は教育局に厳しく管理されているが、子どもの心身育成のために、 多様なプログラム (課程) の開発を行っている。

例えば、空き地があれば子どもたちに田植えと収穫を体験させる田園プログラム(課程)をつくって体験活動を行っている。また、学校の近くに牛乳を作っている企業があるのを利用して、子どもたちと工場に行き、牛乳の生産工程を見学して学ぶ牛乳プログラム(課程)が開発されている。さらには、保護者と連携し、父親たちを教室の中に引き入れて、自分の仕事について児童に説明するなどのプログラム(課程)や、母親たちが「ママ・ボランティアチーム」を作り、他の後輩ママたちに育児などに関する内容を教える保護者のためのプログラム(課程)もある。この他にも、交通安全のためのプログラム(課程)、食品安全を学ぶプログラム(課程)なども開発されている。

#### ウ 学力と幸福な子ども時代の両立

子どもたちは、将来大学に入るために小学生からよい成績を修めることが強要されているが、やはり、幸せな子ども時代を送ることも大事である。つまり、幸福な子ども時代と学業の成功の両立を目指しているのが四村小学校の理念と言える。そのために教師たちには、試験などが終わった後の時期に報告を提出させるなどの手段を使って、学力を重視しながら、前文で言及した多様な実践プログラム(課程)を開発・展開してくようにしている。

表3 本訪問団と深業分校の学校との質疑応答の主な内容

質問者	質問	回答の要点
佐々木会長	①教員の人間関係の工夫	①
	と評価について	・校長先生として、教員は崇高な使命を持ち、愛
		とやさしさを持って仕事しなければならないと
		考えている。
		・考え方の違いが校内で解決できない場合に
		は, 政府に「上訪」(民衆または法人など政府に
		対して意見表明する方法である。)することも
		できる。
		・業績給がある(差は大きくない)。
		・「職称」による評価制度がある。教員の能力に
		よって、初級・中級・高級・特級教師のように評
		価する段階がある。
林会員	②学校の情報が欲しい	②WeChat に公式アカウントがある。
	が, どこで見られるのか。	
会員たち	③児童の英語のレベルが	③中国では英語が大事にされている。そして児
	高いのはどうしてか。	童は、塾などで英語を勉強している。

#### 3 所感

雨山区教育局への訪問と四村小学校深業分校への見学によって、中国政府が幼児教育と 義務教育を非常に重視していることが感じられた。まず、幼児教育に対する動きを見ると、 最近日本で話題となっている幼児教育の無償化に向けた動きは共通しているように思われ る。そして、都市部の小学校の英語教育の推進や、ICT機器の整備、日本の総合的な学習

の時間にあたるような子 すりなどの動きも見れている。 最後にはいる。 を引きれている。 を対している。 をでいる。 をでい。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでい。 をでいる。 をでいる。 をでいる。 をでい。 をでいる。 をでいる。 をでいる。



図7 四村小学校深業分校校長との懇談の様子

## 中学校における総合的な学習の時間・生徒指導・特別活動の日中比較 - 馬鞍山市第八中学校と雨山区教育局の事例から-

#### 林 尚 示 (東京学芸大学)

#### 1 はじめに

本稿では、中華人民共和国馬鞍山(Mǎ'ānshān)市第八中学校と馬鞍山市雨山区教育局の事例などから、中学校における総合的な学習の時間・生徒指導・特別活動の日中比較を試みる。筆者が日本の大学において生徒指導・特別活動・総合的な学習の時間の理論と方法を指導している。中国と比較すると、日本の総合的な学習の時間・生徒指導・特別活動の特徴がより際立つと考えた。

#### 2 中国馬鞍山市へ

馬鞍山市は安徽省東部の地級市である。中国の行政区分は省級、副省級、地級、副地級、県級、郷級などに区分されている。馬鞍山市は工業都市であり、市内に馬鞍山鋼鉄の本社がある。市の総人口は230万人(2017年)、市の一人あたりGDPは67,513.21元(2017年:1元は16-17円)である。人口規模では日本の愛知県名古屋市(2,295,638人、2018年)に匹敵する大都市の1つである。

市の行政区画は雨山区、花山区、博望区などがありそれぞれに教育局を置いて小中学校の教育を行っている。今回は中国高速鉄道の馬鞍山東駅近くの馬鞍山第八中学校と馬鞍市中心地に位置する雨山区教育局を訪問した。

#### 3 馬鞍山市第八中学校の視察内容

#### (1) 馬鞍山第八中学校の概要

馬鞍山第八中学校は、1968 年 4 月創設の公立中学校である。2010 年から汤胜(Tāng shèng) 氏が校長を務めている。46 学級あり、約 2,700 人の中学生と約 170 人の教員が在籍している。

#### (2) 総合的な学習の時間と総合実践活動

馬鞍山第八中学校では、第1学年と第2学年で昼休みに学校併設の少年宮(Children's Palace)での活動が実施されている。この活動は、日本の教育の中では総合的な学習の時間、小学校クラブ活動、中学校部活動との類似性が指摘できる。芸術に関する内容や体育に関する内容などが実施されている。中国の少年宮は課外活動であるが、馬鞍山第八中学校では参加を義務づけることによって必修の活動となっている。今回は、少年級担当の教

員に少年宮の各教室をご案内いただいた。 (図1) 各教室は油絵、水墨画、書道、切り絵、工作、陶芸、中国将棋など多様であった。

なお、2017年9月25日に中国教育部により発表された『小中学校における総合実践活動のカリキュラムの概要(中小学综合实践活动课程指导纲要)』(中国教育部2017)でも、日本の総合的な学習の時間に類似する活動の導入が示されている。これ



図1 中学校併設の少年宮担当の教員

を受けて、馬鞍山市教育部も 2017 年 11 月 3 日に、「馬鞍山市教育局部は馬鞍山市の児童生徒に「義務コース」を追加すると発表(教育部宣布: 马鞍山所有学生都将新増一门"必修课程")」(馬鞍山市教育部 2017)と伝えている。内容は総合実践活動の通知である。総合実践活動の実施時間は、小学校第 1-2 学年は週 1 単位時間以上、小学校第 3 学年から中学校までは週 2 単位時間以上となっている。

なお、小学校から高等学校までで実施する「小中学校における総合実践活動のカリキュラムガイドライン」(中国教育部 2017)では、中学校の総合実践活動は次の目標に基づいて実施されている。

#### 中学校段階の目標(概要)

- (1) 価値観:授業などに積極的に参加し、社会的実践を体験し、価値ある体験を積極的に深める。経験や感情を積極的に共有したり、教師や同級生とアイデアや理解を交換したり、国民的アイデンティティを形成したり、中国共産党を愛したりすることができる。専門的な経験活動を通じて、関心のある専門知識を開発し、前向きな労働概念と態度を形成し、そして初期段階のキャリアプランニングの意識と能力を持つ。
- (2) <u>責任</u>:周囲の生活環境を観察し、家族、学校、地域社会のニーズに合った奉仕活動を行い、奉仕意識を高め、自立的な生活習慣を築き、学校奉仕活動に積極的に参加し、奉仕の能力を高める。地域社会の問題に対する意識を調査し、地域社会奉仕に積極的に参加し、まずは法の支配という概念を持ち、自己、学校、地域社会および公衆道徳に対する責任ある態度を形成する。
- (3) <u>問題解決</u>:自然、社会、生命の現象に注意を払い、価値ある問題を深く考えて提唱し、問題を価値ある研究テーマに変え、科学的方法を用いて研究を進めることを学ぶことができる。問題を理解し解決するために学んだ知識を積極的に利用し、 根拠に基づいた説明をして規範に沿った研究報告書その他の形式での研究を形成することができる。
- (4) <u>創造的な具体化</u>:生活上の問題を解決し、特定のアイデアを実践し、設計・生産・ 組立てを通じてより複雑な製品又は供給品を製造して継続的に改善し、実用的な 革新意識を発展させるための審美的な認識、創造性を達成する能力を向上させる。 情報技術の学習と実践、分析と問題解決のための情報技術の使用、デジタル製品

(中国教育部 2017、下線は筆者による。)

中国の総合実践活動は、価値の創造、学校でのボランティア活動等による責任感の醸成、科学的根拠に基づく問題解決、情報技術等を活用した創造的な活動などの実施といった特徴がある。これは、日本の総合的な学習の時間で実施されている日本国内の各学校での探究活動と共通の方向性が見とれる。

#### (3) 生徒指導と授業の様子

馬鞍山市では、馬鞍山市小中学校心理健康教育ネットワーク(马鞍山市中小学心理健康教育网、Maanshan middle and primary school mental health education network)が生徒指導や教育相談についての教員向けにセミナー、や特別研修等を実施している。時にはこのセンターの職員が各学校を訪問することもある。児童生徒のメンタルヘルスについての対応の必要性は日本と同様に重視されている。生徒指導が行政のセンターを中心にネットワーク化されている点から、生徒指導についても行政レベルで組織的対応の仕組みが構築されているといえる。





図2 食堂と卓球場の建物

図3 校庭の様子

次に、具体的な学校の様子を見てみよう。図 2 は食堂棟の外観である。1 階が生徒食堂、2 階が卓球場となっている。卓球場が充実していることが特徴的である。この地域の他の小学校では、校庭にもコンクリート製の卓球台が複数台あった。一方で校庭には日本でよく見られる鉄棒がなかった。これらのことから、小学校では卓球が遊具のような位置づけになっているようである。中学校ではより本格的に卓球場が整備され、スポーツとして力を入れて指導されているようである。図 3 は中学校の校庭の様子である。日本の一般的な中学校と比較してグラウンドが広いことや校庭に観客席が整備されていることなどが特徴である。

図 4 はランチルーム内部の様子である。右奥から食事が提供され、生徒は机と椅子で食事をする。生徒数に比してランチルームは狭いため、円滑に運営するためには、生徒指導上の配慮をしたルール作りが必要となる。

図 5 はランチルームに掲載されている生徒食堂ランク表である。この地域では学校単位で食品完全等級が掲示されている。ABC の 3 段階あり、この学校は最上ランクの A であった。また、ランチルームではモニターカメラが設置されており、教育委員会によって適切にモニターされている。生徒指導上の諸問題の未然防止や証拠保全の役割もあるもの

#### と考えられる。







図4 ランチルームの様子

図5 ランチルームのランク表示

図 6 は中学校の授業の様子である。日本と比較して特徴的なこととして、金属製窓柵 の設置、モニターカメラの設置、ウォーターサーバの設置、天井の高さ、シーリングファ ン、教壇、内開きドアなどがある。金属製窓柵は外部からの盗難事故の防止とともに生徒 の事故防止など生徒指導上の効果も期待できる。モニターカメラの設置と稼働は学級内 での生徒間暴力、対教師暴力、器物損壊、体罰等の防止への効果が期待できる。ウォータ ーサーバの設置は生徒の健康安全に対しての効果が期待できる。中国の水は硬水であり 汚染問題や衛生管理などの面からの心配があるための配慮である。天井の高さやしーり ングファンについては、冷暖房が未整備であるため二重の天井によって空間を狭くする 必要がないことなどが背景である。日本では減少しつつある教壇については、中国では学 級での生徒数が多く黒板に向かう授業が多いため、現在も有効に活用されている。内開き ドアについては引き戸よりも故障が少なく、外開きよりも廊下の生徒との接触事故が防 げる。

図 7 は英語の授業の様子である。教師はすべての生徒に十分に指示が伝わるようにマ イクを使って授業をしている。中国ではこの学校に限らず教師はマイクを使って授業を することが多かった。教室内の温度調整は衣服で行うため、教師も冬はコート着用で授業 をし、生徒は制服がおそろいのコートとなる。教室の前面に国旗が掲げられていることは 日本以外の多くの国と共通している。液晶プロジェクタを活用した授業は日本と比較し てより多く活用されているようである。







図7 授業の様子2

図8は教室入り口の掲示物である。七年級の「級」が学年であり、第7学年という意味 である。702班の「班」が学級であり、702学級という表示で第7学年2組のことである。

班級宣言とは学級目標のことで、班主任とは学級担任である。日本と異なり、教室の入り 口外側にも学級目標が掲示されている。

#### (4) 特別活動・総合的な学習の時間・生徒指導

馬鞍山第八中学校を訪問して参観した結果、次のこと に気づいた。特別活動関連しては、日本の小学校で実施 されているクラブ活動に類するとして必修の少年宮で の活動が学校併設の少年宮で実施されていた。総合的な 学習の時間については中国全土の小中高等学校で 2017 年から総合実践活動が導入されており、馬鞍山市の学校 にも実施が伝えられていることがわかった。生徒指導に ついては、馬鞍山市小中学校心理健康教育ネットワーク という行政機関を中心として教師への研修が実施され、 各学校でも生徒指導上の諸問題を未然に防ぐ多様な工 夫がなされていた。

なお、まだ導入が決まったばかりの総合実践活動の詳 細な内容は今回の訪問で明らかにできなかったため、こ のことは今後の課題となる。



図8 教室入り口の掲示物

#### 4 馬鞍山市雨山区教育局訪問

中学校視察後に馬鞍山市雨山区教育局を視察することができた。雨山区教育局は1984年 に設立された教育局である。管轄する中学校は5校、公立の小学校は13校、私立の小学校 は 2 校ある。1,396 名の教師、18,000 名以上の児童生徒、そして幼稚園も管轄している。

小学校の学齢児童の就学率は 100%に達 しており、小学校の中退率は 0.01%、卒 業率は100%、中学校の就学率は98.14%、 中退率は 0.45%である。 (馬鞍山市雨山 区教育局 2019)

図9は日本学校教育学会スタディツア ーメンバーが1時間ほど馬鞍山市雨山区 教育局長から区の教育状況をうかがった 際の写真である。教育長は図9の右側の



図9 馬鞍山市雨山地区教育長との会談

白いダウンコートの女性である。区としては幼稚園教育の充実に力を入れていることをう かがうことができた。区には幼稚園は公立4校、国営企業立6校、私立31校、在園児童数 6400人余りである。

#### 5 中学校における特別活動・総合的な学習の時間・生徒指導の日中比較

本稿では馬鞍山市第八中学校と雨山区教育局の事例から中学校における総合的な学習

の時間・生徒指導・特別活動の日中比較を試みた。その結果、中国版の総合的な学習の時間である総合実践活動については 2017 年にガイドラインが出され必修化していること、生徒指導については中国でも学校で工夫するとともに行政で専門機関を設置していること、特別活動については中国と日本では内容が異なること、などが明らかになった。

#### <参考文献一覧>

- 中国教育部、2017 年、『小中学校における総合的な実践活動のカリキュラムガイドライン (中小学综合实践活动课程指导纲要)』 (2019 年 1 月 19 日、https://baike.baidu.com/item/%E4%B8%AD%E5%B0%8F%E5%AD%A6%E7%BB%BC%E5%90%88%E5%AE%9E%E8%B7%B5%E6%B4%BB%E5%8A%A8%E8%AF%BE%E7%A8%8B%E6%8C%87%E5%AF%BC%E7%BA%B2%E8%A6%81/22185380?fr=aladdin)。
- 馬鞍山市雨山区教育局、2019、「馬鞍山市雨山区教育局単位紹介」、(2019年1月19日、http://jiaoyu73404200.e-fa.cn/introduce/)。
- 馬鞍山市教育部、2019、「马鞍山市中小学心理健康教育网-」(2019 年 1 月 19 日、http://www.ahxledu.cn/NewReport/News\_show.aspx?oid=1347&id=4882)。
- 馬鞍山市教育部、2017、「教育部宣布:马鞍山所有学生都将新增一门"必修课程"」(2019年1月19日、http://www.sohu.com/a/202178657\_654707)。

#### 万達城教育モールと馬鞍山市少年宮新三館

藤田 麻里絵(上越教育大学大学院)

#### I. はじめに

2019年12月28日午後、馬鞍山市内にある万達城教育モールと馬鞍山市少年宮新三館を訪問・見学した。本稿は、両施設の概要や設立経緯、内部の様子などを簡潔にまとめたものである。

#### Ⅱ. 万達城教育モール

#### 1. 施設概要

万達広場(中国語: 万达广场)) は、2014年9月19日に開業した馬鞍山のビジネス、文化、エンターテイメント、ショッピング、レストランなど様々な機能を併せ持つワンストップビジネスセンターとしての役割を担う商業開発ビルである。中国大手不動産会社である大連万達グループが運営し、ショッピングモール、5つ星ホテル、オフィスビル、商店街、高級住宅などを統合している。万達



城教育モールは、その中にある子どもの習い事 【図a】万達城教育モールの外観。 (学習塾や語学教室など)の店舗が多数集まったモールである。



【図b】教育モール内吹き抜け



【図c】スポーツ教室

#### 2. 開講教室

モールのフロアを貸し切り、英語、数学、化学、美術、ピアノ、工作、パソコンなど、 実に様々な教室の店舗が並ぶ。1フロアに約27店舗の教室が集約されている。



【図d】受講生募集の広告



【図e】ピアノ教室



【図f】IT 教室



【図g】図工教室



【図h】子どもの年齢別に学ぶ分野を紹介した広告

#### Ⅲ. 新山館少年宮

#### 1. 三館について

三館とは、「馬鞍山科技館」「青少年宮」「女性と子供の活動センター」(図1)の三施設を示す。2008年6月、馬鞍山市議会の特別会議でこの「三館プロジェクト」の設立が検討され、市科技局が担当を担うことが決定された。その後、2011年3月にプロジェクトを開始し、同年末に完成した。

「三館プロジェクト」は印山路の南、台北街の東、台山路の西、中山路の北に存在する。 計画敷地面積は 65,482.38 平方メートル、建物全体は地上 5 階、地下 1 階の 6 階建ての 1 棟の建物として設計された。総建築面積は 49,200 平方メートル、そのうち地上の建築面積は 4,1200 平方メートル、地下の建築面積は 8,000 平方メートルと、市の教育施設とは思えないほどの広大な敷地と巨大な建築物はまるで美術館のようであり、初めて訪れる者を圧倒させる。(【図 2 】)





【図2】三館の外観

内部は展示場、子供の活動区域、文化・スポーツ活動区域、教育訓練区域、相談 区域と5区域に分けられており、オフィスサービスエリアと地下スペース、そして各機能エリア内の人の流れの特性に従って、垂直共有アトリウムを中心に各機能エリアを整理するように設計されている。

各機能は比較的独立しているが、互い



【図3】入口の吹き抜けエリア

に補完し合いながら、それぞれの長所を際立たせるように運営されている。(【図3】)

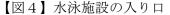
## 2. 馬鞍山青少年宮の概要

馬鞍山青少年宮は、1984年10月に設立された馬鞍山市の青少年教育に特化した公共福祉 事業である。市内で最古かつ唯一の教育施設であり、青少年教育の最前線として市民に認知 されている。共産主義青年団馬鞍山市委員会に所属している。

施設内には「青少年コンピュータ研修基地」、「青少年外国語研修基地」、「青年再雇用研修基地」、「馬鞍山市武術人材育成基地」、「馬鞍山市子供市民道徳養成基地」と、大きく五つの分野が存在する。順次「中国少年報馬鞍山生徒レポーターステーション」、「少年博覧雑誌馬鞍山生徒レポーターステーション」、「全国青少年コンピュータ資格試験馬鞍山場所」、「ケンブリッジこども英語全国試験馬鞍山場所」、「中国音楽家協会全国音楽試験馬鞍山場所」、「中国美術学院美術資格試験馬鞍山場所」が設立された。

#### 3. 設置科目

施設内に常設されている科目は実に多岐にわたる。美術、書道、スケッチ、ヴォーカル、フォークダンス、ラテンダンス、MC 養成、武術、コンピューターロボット、暗算、ピアノ、中華楽器、バイオリン、キーボード、ギター、アコーディオン、ドラムキット、サックス、竹笛、囲碁などがある。その成果は目覚しいものであり、毎年全国、省、市のさまざまな競技会で成果を挙げている。(【図4】-【図8】)





#### 4. 施設内の様子

馬鞍山青少年宮館長に施設内をご案内いただいた。1階には子どもだけではなく大人も利用できる水泳施設を完備しており、2階はダンス系、3階は美術系の教室が集約されている。馬鞍山市の公共福祉事業の一環であるため、基本的には国からの助成金を受けて運営されているとのことである。またインターネット環境も整備されている。



【図5】科学コーナー内部



【図6】磁石の働きを学ぶ装置



【図7】電気の実験を行うエリア。子どもが中に入り電気を生み出す仕組みを体感する。





【図8】エントランスにある開講教室の立て看板。保護者が詳細情報を入手できるように QR コードが添付されている。

#### Ⅲ. 就学児童の教育事情

今回、学校以外の2つの教育施設を訪問した。中国家庭の、日本以上に子どもの教育にかける情熱を感じ取ることができた。

2017 年、新浪教育が公表したデータによると、中国の平均教育支出は家庭年収の 20%以上であり、小学校から高校まで、何らかの塾に通ったことがある子どもは 81. 26%であった。また、2012 年 PISA テストでは、上海の学生の平均学校外勉強時間は 13.8 時間であり、塾の時間を加えると 17 時間に及ぶ。0ECD の平均値は 7.8 時間であり、その 2 倍以上の勉強時間であることが判明した。その中で、数学、国文、科学、その他の塾の参加率はそれぞれ 71%、51%、55%、57%であった。時間数は 2.01、1.33、1.49、1.41 時間である。ちなみに同じアジアである香港・マカオ・台湾の学校外勉強時間はその 1/2、日本はその 1/3 程度である。

受験競争激化に伴い、学習塾や習い事、幼児教育が盛んに行われるようになった結果、巨大ショッピングモールなどに各教育企業が出店するようになったという背景を、今回現地で体験することができた。日本にもショッピングモールに学習塾や教室を出店している企業は存在するが、万達城教育モールや少年宮ほど大きく、かつ多数の習い事・塾が一同に集約された教育施設は見たことがない。我々が少年宮を訪れたのは17時過ぎであったため、習い事を終えた子どもを迎えに来た保護者の姿が多くみられ、家庭の子どもの教育に対する意識の高さを肌で感じ取ることができた。

#### IV. 終わりに

スケジュールの都合上、万達城教育モール・青年宮の滞在は各30分程度と短い時間では あったが、非常に貴重な経験をさせていただいた。そして、何より今回のスタディツアーに 関わって下さった全ての皆様に心より感謝申し上げる。

## V. 参考文献

· 馬鞍市山少年宮

http://www.masxsg.cn (最終閲覧:2019年3月20日)

新浪教育

http://edu.sina.com.cn/1/2017-11-30/doc-ifypikws8700666.shtml (最終閲覧:2019年4月24日)

• Dalian Wanda Commercial Management Group Co., Ltd.

http://www.wandaplazas.com/en/projects/plaza/(最終閲覧:2019年3月20日)

## 南京暁庄学院付属小学校の授業実践と考察

山野井 純子(埼玉県立川口北高等学校教諭)

#### はじめに

今回でタイ、台湾、中国と3回スタディーツアーに参加させて頂きました。どのスタ ディーツアーも内容が充実していて、毎回新たな発見がありました。

現地コーディネーターの牛先生、スタディーツアー団長の佐々木先生、国際交流委員長 の釜田先生、交流委員の中山先生、小池先生、また留学生の牛さん、蔣さんにも大変お世 話になりました。

#### 1 陶行知の教育に対する考え方

陶行知は1891年に小商人の家に生まれた。成績優秀のためアメリカに留学する機会 に恵まれ、哲学者デューイから強い思想的な影響を受けたが、その当時、中国の人口の 85%以上は農民で、殆ど非識字者であったので、その思想を変容し中国に取り入れる必

要があった。そして彼は、中国の全人普及教育、 民主主義教育、英才教育、反日・愛国教育に着手 した。全人普及教育のために1927年に創設し た学校が暁庄学校であり、今回訪問した暁庄学院 付属小学校の前身である。

彼の考える農民に対する全人普及教育の信条とは 「棒着一顆心来、不帯半根草去」(来る時は一心を 捧げ、去る時は草一本も奪わずに、つまり、全く個 人の利益を図らず、真心で農民に供養しよう)とい うものである。当時の中国の状況を考慮し、教育を 全国民に普及するために、陶行知はただ単にデュー イの思想をそのまま取り入れただけではなかった。 彼の唱えた教育の基本は、「生活即ち教育、社会即 ち学校、教学做合一」であった。つまり、教えるこ 教育を受けた子供が大人に教える(上) とは学ぶこととは一つであり、教え、学ぶときには 必ず五感と体の全部または個別の器官によって、知



陶行知の作成した教科書(下)

性に働きかけなければならないと考えたのである。これらの陶行知の教育の基本が、現在 の暁庄学院付属小学校にも生かされていると感じた。

## 2 暁庄学院付属小学校の「行知楼」

今回私達が訪問した暁庄学院付属小学校には、HR 棟の「陶子楼」「陶园楼」の他に芸術棟の「行知楼」があり、児童が授業を受けている様子は視察できなかったが、クラブ活動で使用している「行知楼」を中心に視察することができた。「行知楼」は、1階が音楽関係の教室、2階が科学関係の教室、3階が美術、工作関係の教室、4階がコンピュータ、ロボット関係の教室になっており、主に昼食後の全員参加のクラブ活動時に使用されるようになっている。





音楽の授業-円になって体を動かしながら楽しそうに歌う児童 手を叩いて手本を見せたりピアノを弾いたりと大忙しの教師



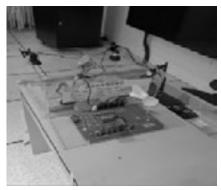
制作途中の児童の陶芸作品



ロボットセット



棚に飾られた生徒優秀作品



組み立て途中の生徒作品

- 3 参考になる点
- (1) 芸術系教科の重視・・・児童が五感を使って学べる創造的な活動を重視している。
- (2) 施設・設備の充実・・・コンピュータ、工具、エプロン、製作したロボット用ロッカーなどが大変充実していると感じた。



コンピュータ・ルーム



陶芸用のエプロン



工具



ロボット用ロッカー

(3) 保護者の協力・・・保護者が授業にも参加している。例えば児童の陶芸教室の隣に保護者用の部屋があり、そこに保護者が待機し、教師と協力して授業を教える。



保護者の作品



保護者の作品を紹介する校長先生

(4) 児童同士の教え合い・・・グループ内での組織を整え、各自に役割分担を与え責任 を持たせるなど工夫している。



児童の組織と役割分担



児童の活動中の写真

(5) 成果を評価・・・優秀作品などを掲示している。



書道の優秀作品



科学の優秀作品

(6) 大志を持たせる・・・有名人の写真や言葉を掲示し、児童に夢を抱かせる工夫をしている。



中国で有名な科学者の写真



"Do you want spend the rest of life selling sugared water or do you want a chance to change the world?" By Steve Jobs

(7) 横断的な行政・・・学校教育に日本の公民館の文化教室が入っている印象である。

## 4 分校訪問

まだ開校していないのであるが、分校の外観を見学することもできた。









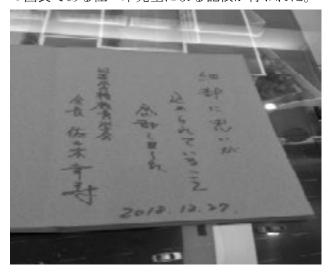
陶行知の銅像(右) 陶行知の「頭と手を使って学べ」の精神が込められた校旗(下・中)

## 5 記帳

訪問の最後に今回のスタディーツアーの団長である佐々木先生による記帳が行われた。



佐々木団長(左) 暁庄学院付属小学校校長先生(右)

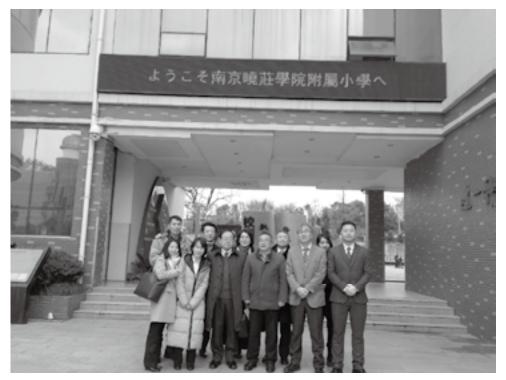


「細部に思いが込められていること感動しました」 日本学校教育学会 会長 佐々木幸寿 2018.12.27

#### 終わりに

陶行知の思想はアメリカの哲学者デューイの思想を基本として、中国のその当時の現状に合うように創造したものである。教えることは学ぶこと、学ぶときには必ず体の五感を使い、全部または個別の器官によって知性に働きかけることが教育の基本であるとしたことは、現在高校の英語の教員である私が主に取り組んでいる、生徒が英語の四技能(読むこと、聴くこと、話すこと、書くこと)を、相互の学び合いを通して学習できるような授業展開をすることや、教科横断的な学習にも通じている。

児童・生徒が学ぶ事柄を、生活や自らの経験の中から興味を持って探し出すことが大切であるが、現在の忙しい教育現場では、学ぶ事柄に関しては教育指導要領に従って、教師側から提示することになる。しかし、デューイや陶行知の唱えた「生活、即ち教育」という観点を忘れないようにしたい。また、教師、保護者、児童が協力して授業を作り上げることは、日本ではまだ取り組みがされていないが、教師のみならず、保護者が教えることにより、教師も保護者も共に学ぶことができ、教師と保護者が一体となることにより、相互に理解できる機会となる。更に、学びの場が、学校という意識から、学校と家庭という意識にまで広がる。「社会、即ち学校」となるような取り組みがこれからの日本の教育現場にも期待される。



## <参考図書>

『行知园』南京暁庄学院 江蘇省陶行知記念館 江蘇省陶行知研究会 『陶行知の芸術教育論~生活教育と芸術との結合』李燕著

## 南京師範大学 学術交流会

蒋小翠(目白大学学部生)

2018 年 12 月 27 日に、日本学校教育学会会長、東京学芸大学副学長の佐々木幸寿教授が 代表団を率いて南京師範大学教育科学学院を訪問し、学術交流会を行った。日本学校教育

学会側の参加者は、佐々木幸 寿教授、中山博夫教授、牛志 奎教授、神永典郎教授、林尚 示准教授、山野井純子教諭及 び周勝男さん(博士課程院 生)、牛玄さん(博士課程院 生)、藤田麻理絵さん(修士課 程院生)、蒋小翠(学部生)の 10名である。中国の南京師範 大学側は、張新平教授、程晋 宽教授、叶忠教授、姚継軍教 授、顧秀林さん(博士課程院生)、李華さん(博士課程院生)



[南京師範大学と日本学校教育学会の教授と学生]

など、大勢の方が参加した。今回の学術交流会は、張新平教授が司会者を務め、二部に分けて行っている。第一部は、双方の教授の交流であり、佐々木幸寿教授、程晋宽教授、林尚示副教授、叶忠教授が研究発表を行った。第二部は、双方の博士課程院生の学術交流であり、牛玄さん、周勝男さん、顧秀林さん、李華さんが研究発表を行った。



[佐々木幸寿教授の発表と通訳する牛玄さん]

まずは、第一部の双方の教授の学術交流について報告する。教育行政および教育法分野の研究者である東京学芸大学の佐々木幸寿教授が「日本の教育行政」について発表した。戦前の教育行政の在り方を反省し、戦後は政治と教育行政との関係を、いかにバランスをとるのか重要な課題になっていた。佐々木教授は、現代日本の教育行政の特徴である指導行政の中で重要な働きをする"指導主事"について紹介した。指導主事は、教員に対

して専門的な助言を与え指導をすることを任務をとしている。指導主事は、学校と教育委員会の間の"架け橋"として重要な役割を担ってきた。発表の最後に、佐々木教授は、指導主事は教育と行政との関係に促進的な効果をもたらしたかどうかについて問題提起した。また、指導主事が上司の命令に従うことによって学校と現場に影響を与えるかどうかについても問題提起された。

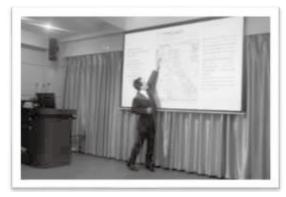
南京師範大学の程晋宽教授の発表テーマは、「中国の教育改革の制度を革新するのは、なぜ難しいか」である。改革開放40年以来、中国の教育制度の革新は、なぜこんな難しいのか。現在の公共的な教育制度である公立学校は、"教育の質的均衡"と"制度革新"の問題に直面している。それに対して、アメリカの"八年研究"は、生徒が自分の頭で考えることを目指し、教員への教育面の自由度を与え、民主的な授業を促進した。中国の"特許学校"制度は、



[南京師範大学の程晋宽教授の発表と通訳する牛志奎教授]

現代の学校制度に再び挑戦し、革新的な問題などと関わっている。教育改革は、社会伝統 や制度の慣性、社会批判を充分に考慮すべき問題である。また、"学校教授制度"の革新を 重視することや共同的な目標にめぐって、民衆の知恵が必要であると述べた。

次は林尚示准教授の発表である。日本の学校のいじめ問題は、中学校や高等学校では、その発生数が横ばいであるが、小学校では増加している。文部科学省においてもいじめ問



[東京学芸大学の林尚示准教授の発表]

部科学省の調査結果の要点について具体的に紹介し、ご自身の学校現場での調査結果も踏まえた見解を述べられた。林尚示准教授は、個人の意見に基づく対策は、説得力が弱く、研究や調査は、データに基づくべきであると主張された。いじめ問題の解決に対して講じた対策が有効的であったかを検証する際に、客観的なエビデンスをもって検討することが大切であるという主張である。

南京師範大学の叶忠教授は、中国の私学助成の在り方に関する研究を発表され

題を憂慮し、問題解決に取り組んでいる。 生徒指導の分野を専門とされている東京 学芸大学の林尚示准教授は、文部科学省の 調査結果に基づいて、日本のいじめ問題に ついて紹介した。文部科学省のデータから 見ると中学校の暴力行為の発生率は、近年 下がってきた。一方で、小学校の方はどん どん上昇してきた。文部科学省は、毎年学 校のいじめに関する調査を行って、様々な 対策を練り実施した。林尚示准教授は、文



[南京師範大学の叶忠教授の発表と通訳する牛志奎教授]

た。今までに、中国の私立学校は三つの時代を経てきた。それは、公教育の"有益的な補充"、つまり公教育の補助の時代から、公教育にとって重要性がある"教育発展の重要なポイント"の時代を経て、現在は公教育の重要な一部である"教育発展の重要な構成部分"

の時代に至っている。叶忠教授によると、私立学校教育は地域によって差異がある。そして、教育改革の重要な要素であり、重要な構成部分でもある。2018年に「民営教育促進法実施条例」が発表された。その目的は、私立学校を分類して管轄し、その類型によって様々な財政支援政策を実施することである。私立学校の運営経費は、生徒の学費が大部分を占めており、政府からの支援は少ない。そのために教育の質のばらつきや教育水準が確保できない等の問題も生じている。それらの問題に対して、他国の教育政策との比較研究から示唆を与えられたと叶忠教授は述べていた。そして、以下のような中国の教育改革案を提示することができた。例えば、①財政支援政策のシステムを改善し、築き上げること、②分類管理の下に、差異的な支援政策を明らかにすること、③財政支援方法の多様化、④財政支援政策の管理システムなどである。

では、第二部の博士課程院生との学術交流に移りたい。東京学芸大学院生の牛玄さんの研究発表のテーマは、不登校児童生徒の人権保障に関する法整備についてである。不登校



[東京学芸大学の牛玄さんの発表]

児童生徒の問題は深刻な様相を呈している。その問題の解決は、現代教育の喫緊かつ重要な課題である。日本の学校教育は、日本国憲法、教育基本法、学校教育法に基づく就学義務の徹底、学習指導要領の法的拘束力などにより画一化・固定化されている。不登校問題の解決に対して、柔軟に対応できていない現状がある。それについて、牛玄さんは北海道札幌市のフリースクールに関する条例の

事例を基にして考察している。その結果、フリースクールの準公認、民間指導者の活用、教育内容の個別化が求められるという結論に至った。また、政治家による法制推進と制度改革をし、行政の融合化・総合化やNPOの協動性を促進することが必要についてもふれられた。

南京師範大学の顧秀林さんは、「教育家型」校長の実現に向けて、中国の政策展望における「校長像」の 40 年の回顧について発表した。校長像の研究を通して、中国改革開放 40 年間における校長の在り方に関する考え方の変遷を明らかにすることができた。40 年間の校長の在り方に関する考え方は、四つの段階を経て変化してきた。すなわち、政治的な基準による「管理型」の校長、知識ベースの「合格型」の校長、能力ベースの「エリート型」の校長、「標準のような専門家型」の校長の四段階である。また、校長の資格はその時の政府の「意見依拠」によるものから「標準基準」まで、校長の質は「単一的」から「総合的」まで、校長の地位は「依存的」から「自主的」までと幅がひろいものであった。顧秀林さんによると、校長の在り方は、将来的には「教育家型」の校長へと移行していくことが望ましいということであった。「教育家型」の校長は、育成するものではなく、校長自らが自己形成するものである。さらに、「教育家型」の校長は、権限が独立的であり、自ら学校環境を整え、専門職として教育活動をリードしていくことが求められるのである。

日本の兵庫教育大学連合大学院の周勝男さんは、多文化共生を目指した国際理解教育についての研究発表を行った。近年、日本在住の外国人が増加してきた。それとともに、外

国人児童生徒も増えている。日本の学校現場は、多言語多文化化が進展している。学校では、様々な問題も生じている。異質との共生が緊急の課題になっている。それに対して、様々な対策を推進している。例えば、日本国際理解教育学会の国際理解教育の学習領域には、多文化社会に関する学習領域がある。3F等の文化理解の実践は、教育現場でよく行われてきている。新たな研究としては、「ことば」と「多文化共生」である。それらについて、周勝男は教材開発の提案をした。周勝男の教材開発の方法論は、動的文化観と潜在文化、意見・対立を活用した平等な立場での対話を通して、新たな文化の共創を目指すことである。

南京師範大学の李華さんのテーマは、校長のリーダーシップの生徒の成績への影響についてである。校長のリーダーシップはいかに生徒の成績に影響するのかについて、中国内においても諸外国においても、理論研究の面から論争が行われてきた。その中に、3 つの校長のリーダーシップ理論が、教育的に効果をもつものとされている。それは校長のリーダーシップが生徒の成績への影響の三次元的な理論解釈である。実証的検証の結果から校長の教授面でのリーダーシップは、生徒の成績の向上に対して大いに効果がある。校長のその面でのリーダーシップは、生徒の成績の向上に対して大いに効果がある。校長のその面でのリーダーシップは直接や間接を問わず、広く多くの科目において生徒の成績に影響を及ぼすことが分かった。校長の学校運営のリーダーシップは、学校運営を通して、生徒の成績を向上させていた。校長の道徳面のリーダーシップが、学校文化への影響を通して、学校の道徳規範などを制定し、多様な方法で生徒の成績に影響を与えていたことも分かった。李華さんは、この3つのリーダーシップの関係は、教授面を核とし、学校変革を原動力とし、道徳が効果を向上させていると考えている。



[プレゼントの交換]

第一部と第二部の発表は、ここで 完了した。その後、発表に関する質疑



[全員の記念撮影]

応答に入った。牛志奎教授と張新平教授が今回の交流会についてまとめ、学術交流会は終了した。そして、佐々木幸寿教授と張新平教授とがプレゼントを交換し、全員の記念撮影をした。

## 南京大虐殺記念館と南京市内訪問

## 神永典郎(白百合女子大学)

## 1 はじめに

スタディツアー4日目 (12月29日) は、前日の夜に宿泊した南京金陵飯店を出発し、午後3時45分発の高鉄上海行きに乗車するまでの間、南京大虐殺記念館(侵華日軍南京大屠殺遭難同胞紀念館:しんかにちぐんなんきんだいとさつぐうなんどうほうきねんかん)の見学を中心に南京市内を訪問した。

#### 2 南京大虐殺記念館の見学

## (1) 南京大虐殺事件

第二次世界大戦中の1937年12月13日から約40日間、南京市において一般市民と中国軍捕虜を殺害したとされる南京大虐殺事件は、その犠牲者数を巡って日本の政府や研究者と中国政府とではその数に大きな差があり、日中両国で見解が分かれている。



図2 事件と犠牲者数を記す塔と壁



図1 犠牲者の苦しみ合わす野外の彫刻

南京大虐殺記念館は中華人民共和国の博物館であり、博物館の等級区分として最高位の中国国家一級博物館とされ、犠牲者の追悼施設でもある。史料館の入り口前の広場には、300000という数が大きく記されていた。この30万人という数字については、これまでに「南京に至るまで日本軍が戦争しながら殺害した人を含めた犠牲者の数である」との説明がされているようである。

## (2) 記念館の史料展示館まで

この博物館の入場は無料で、施設の敷地に入る入口でチェックを受けると南京大虐殺の史料館の入口までの間に大きな彫刻が置かれている。そこを進むと史料館と遺骨陳列館の間にある広場となり、そこに犠牲者数の 300000の数字が記され壁と、その期間である1927.12.13-1939.1が刻まれた十字の塔がある。

#### (3) 史料展示館

入口を入ると中央に再び30000の数が記された表示がある部屋に入る、壁には犠牲者名と写真があり、この事件による犠牲者が数多くいたこと認識するための展示となっていた。館内には事件当時の南京市の様子が想像できるように再現されている場所もあり、また、南京大虐殺事件だけでなく、抗日戦争に関するパネル展や史料も展示されていた。



図3 塔ある広場から史料展示館へ向かって



図4 犠牲者の名前の書かれた壁



図5 犠牲者の顔写真の貼られた壁

#### (4) 館内の史料展示について

展示の中でも、数多くの犠牲者を埋めた「万人坑」に関する展示はリアリティのあるものとなっている。遺骨陳列室にある「万人坑」は、虐殺後に遺骸が棄てられた場所である。展示の中には、「万人坑」から掘り出された人骨の一部が置かれていた。



図6 積み重ねられた遺体の写真

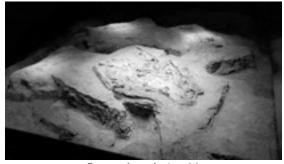


図7 「万人坑」遺跡の様子の展示

ここでも、ここを訪れる者に、南京大虐殺事件での犠牲者が多数あったことと、その際の取り扱われ方が非人道的なものあったことを強く感じられるような展示となっていた。 ただ、これは犠牲者に関する見解の相違があるとしても、第二次世界大戦の引き起こした戦争のもたらした事件としては実際にあった事実であり、ナチス・ドイツのユダヤ人強制収容所におけるユダヤ人の大量虐殺と並んで、歴史に残された悲惨な出来事として記憶

しておくべきことであることは確かである。

犠牲を強いられた中国国民の立場でなくても、この事実と犠牲になった人々の生命の尊さを思う時、思わず手を合わせ、平和な世界の希求することに祈りを捧げたいという思いを強くする場所であった。



図8 南京大虐殺事件についての 日本の報道としての展示



図 9 日本で南京大虐殺事件を検証し 発刊された書籍についての展示

日本において南京大虐殺をどのように受け止めているかの史料として展示されていたものには、その当時の新聞や雑誌など日本で発行されたものや、戦後に日本で出版された本などから収集されたものが多く用いられていた。

また、展示史料の中には、史実として南京大虐殺を検証するものとした発刊された日本の書籍なども展示されていて、中国人来館者にはその書籍の内容は分からないとしても、日本人としてこの展示を見る限りでは、できるだけ南京大虐殺事件について日本の側からの見方も取り扱おうと努力していることが感じられた。

### (5) 館内に掲げられた中国政府の姿勢を示した表示について

19世紀の後半から、日本は一歩一歩と帝国主義の道を歩んでいき、何度も対中侵略戦争を発動し、戦争中数え切れない犯行を実施した。1931年に日本は意図的に9.19事件\*を起こし、局部的な対中侵略戦争を発動した。1937年7月7日に、日本は横暴にも全面的な対中戦争\*\*を発動した。同年12月13日に南京に野蛮に侵入した日本軍は、公然と国際法に違反し、虐殺・強姦・強盗・放火を恣意的にし、国内外をおとろかす南京大虐殺事件を起こした。南京の三分の一の建物は毀され、大量の財物は略奪され、数え切れない女性は蹂躙・殺害され、数え切れない子どもは非命に死なれた。戦後、日本人戦犯裁判の中国軍事法廷の裁判によると、犠牲者の総人数は30万人有情にも達している。南京大虐殺は、侵華日本軍が犯した数え切れない暴行事件の中でも最も典型的な一例として、世間の耳目を驚かす非人道的な犯罪行為であり、人類史上の暗黒な一員である。本展示の宗旨は、南京大虐殺という痛ましい史実を銘記し、無事の犠牲者を追懐するとともに、平和に発展する道を断固として歩んでいきたいという中国人民の崇高な願望を表明し、歴史を銘記し、過去を忘れず、平和を心から愛し、未来を引き開いていこう、という中国人民の確固とした立場を宣言するということにある。

#### \*柳条湖事件 \*\*盧溝橋事件

史料館の展示の最後の方には、南京大虐殺事件の生存者の李秀英の言葉として次の文が 日本語で書かれていた。

歴史をしっかり銘記しなければならないが、 恨みは記憶すべきではない。

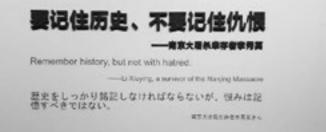


図 10 南京大虐殺事件生存者の李秀英さんの言葉

また、12月13日を南京大虐殺犠牲者追悼の日と定めた2014年12月13日に行った第12回南京大虐殺犠牲者国家追悼式において述べた習近平国家主席の次の言葉が大きく掲げられていた。

我々が南京大虐殺犠牲者のために国家追悼式を挙行するのは、善良な人々一人一人の平和の志向と堅守を喚起するためであり、恨みを継続するためではない。中日両国民は、代々友好を続け、歴史を鑑として、未来に向かい、共同で人類の平和のために貢献すべきである。

そして、出口に掲げられた「結語」には、日本語で次のような文章が書かれていた。

歴史は歴史であり、事実は事実である。極東国際軍事裁判所と中国戦犯裁判軍事法 廷は、共に南京大虐殺事件を調べ、かつ法律上でその性質を定め、結論を出した。歴 史はその移り変わりにつれ変わることはなく、歴史は巧舌で否認しても消えることは ない。南京大虐殺という無惨な事件の証拠は鉄壁であり、改竄を許さない。

歴史を忘れることは裏切ることで、罪責を否認することも再び繰り返すことを意味することだ。南京大虐殺事件の歴史が啓示しているの、歴史を心に刻み、過去を忘れず、平和を愛好し、未来を切り開かなければならない、ということである。南京大虐殺事件が語っているのは、平和は勝ち取らねばならす、平和は擁護しなければならず、平和と協力は人類社会進歩の永遠のテーマだということである。

戦争の苦難を経験してきた中国人民は平和の貴重さを特によく理解いている。今日の中国は世界平和の断固とした提唱者であり、有力な擁護者である。中国人民は平和発展の道を揺るぎなく歩み、中華民族の偉大な復興を実現するという中国の夢のために奮闘し、恒久平和、共同繁栄の世界を建設するために、各国人民と手を携えて努力していく!

これらの表示にある言葉を見る限り、中国政府においても、南京大虐殺事件を生んでしまった歴史の惨事を二度と繰り返すことのないように願っていることが分かる記念館の展示となっていた。

各国がこのような姿勢を持って臨むことができるのであれは、現在、利害の対立で争いが生じている地域にあっても、「平和への願い」という上位目標に向けて紛争解決の道を探ることができるのではないかという希望を抱きながら、記念館を後にした。

#### 3 南京夫子廟とその周辺

記念館の後は、南京市の観光スポットでもある南京夫子廟地区へ向かった。ここで昼食を取り、午後3時45分の上海行きの中国高速鉄道に乗車するまでのしばしの間、南京夫子廟の見学や、その周囲に整備されたショッピング街の自由散策を行った。

この南京夫子廟は、南京秦淮区の秦淮河北岸に位置し、孔子を祭っている廟である。夫子廟は337年に設立され、1034年に孔子廟に改築されたそうである。また、その周辺は観光スポットとして開発され、中国らしい建造物がある中に飲食店やショッピング街が広がるにぎやかな町並みを形成していた。



日本人に取って南京市は南京大虐殺のあった場所として記憶されていているが、歴史的にも何度も中国の首都となったところであり、人口も800万人を超える大都市であることを感じながら宿泊先の上海に向かった。

#### 図 11 夫子廟景区にある天下文枢

## 侵華日軍南京大虐殺遭難同胞記念館の見学から考えたこと - 日本と中国の相互理解のために-

## 周勝男(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科)

#### 1. はじめに

本稿はまず記念館の紹介をしてから、南京大虐殺に関連する歴史教科書や歴史教育の現 状と問題点を考察し、日中相互理解の視点から戦争記念館と学校の連携を考慮した教育実 践上の留意点などを考えていきたい。

#### 2. 記念館の紹介

侵華日軍南京大屠殺遭難同胞紀念館(しんかにちぐんなんきんだいとさつぐうなんどう ほうきねんかん)は、中華人民共和国の博物館であり、追悼施設でもある。日本のマスメ ディアからは南京大虐殺紀念館とも呼ばれる。

侵華日軍南京大屠殺遭難同胞紀念館(以下は記念館)は南京の江東門大虐殺「万人坑」遺跡という所に立てられた。1982年の第一次教科書問題(1982年に日本文部省の検定で、歴史教科書の「日本軍が「華北に『侵略』」を「華北へ『進出』」という表現に書き改めたこと)をきっかけに、紀念館の建設が提案された。そして、1985年に着工され、抗日戦争40周年に当たる同年8月15日にオープンした。また、大規模な拡張後の新館は南京大虐殺70周年に当たる2007年12月13日に開かれた。

紀念館は広場陳列、遺骨陳列、資料陳列からなる。広場には犠牲者名を記したものなどの様々な記念碑や虐殺を描いた彫刻などが置かれている。遺骨陳列室には虐殺後に遺骸が棄てられたとされる「万人坑」から掘り出された人骨の一部が展示されている。資料陳列室は南京大虐殺だけではなく、日中戦争の資料が展示されている。「本展示の宗旨は南京大虐殺という痛ましい史実を銘記し、無辜の犠牲者を追懐するとともに、平和に発展する道を断固として歩んでいきたいと言う中国人民の崇高な願望を表明し、歴史を銘記し、過去を忘れず、平和を心から愛し、未来を引き開いていこうという中国人民の確固な立場を宣言する、ということになる。」



(中国語で「标志碑」という記念碑であり、「1937.12.13-1938.1」と表記されている)



犠牲者の名前を記入している「遇难者名单 墙」である。

また、2014年から、記念館は南京大虐殺犠牲者国家追悼の指定場所として、毎年 12月 13日に追悼祭典が開かれている。南京大虐殺犠牲者国家追悼日(中国語:南京大屠杀死难者国家公祭日)は南京大虐殺の被害者のための国民記念日である。

## 3. 歴史教科書における南京大虐殺に関連する記述の日中比較

(1) 中国の中学校歴史教科書における「南京大虐殺」に関する記述

#### 南京大屠杀

1937年12月13日,日军攻陷南京。国民政府迁往重庆, 把重庆作为战时的陪都。

日本侵略者所到之处、烧杀循律、无恶不作。日军占 领南京后,对南京人民进行了血腥大屠杀,犯下了前天罪行。 南京的和平居民,有的被当作练习射击的肥子,有的被当

第四律与与学文与生民法院统 93



作练习剩条的对象、有 的被抵继。根战后中国 南京审判目本战犯军事 边底查证。日军占领南 京任《日军 居主 无寸铁的中国部民和 下武器的士兵达加刀 人以上。





NUMBER

STREETS STREETS

#### 公司相关束事

1937年12月18日, 日本 将因于南京基府与的第分者 始5.7万多人。全部居的抗協 物,报至下关军耗歧。其机恰 官急加射。在成前中向统呼峰 特犯者,均被制刀亦载。日军 祥全部户体焚化。

12月, 日本《永字日日新 阁》以"蒙金山下"为题。 提進如下消息: 日军少尉向 寿和野田进行吸亦百人的比 赛, 野田亦了305人。向寿录 了106人。但不知谁免。更明 100人,所以胜负难免。更明 品翰维克参溪130名中据人。



図:「南京大虐殺」に関わる教科書記述(出典:人民教育出版社2016版『中国歴史』教科書p93~p94)
(注)中国の義務教育段階において、教育部が統一編集した3教科の教科書『歴史』『語文』『道徳と法治』は2017年から使用開始、2019年から全国で使用すること。

#### 南京大虐殺(日本語訳):

1937年12月13日に、日本は南京を侵攻した。 国民政府は重慶に移し、重慶を戦争中の首都に した。

・日本侵略者はいたるところで放火・虐殺・強姦・略奪して、あらゆる悪事をした。日本軍は南京を占領した後、南京住民を血生臭い虐殺をし、この上ない大きな罪を犯した。南京の人々は射撃や銃剣練習の的にされたり、生き埋めされたりしたこともあった。戦後の中国南京日本戦犯裁判軍事法廷の査証により、日本軍は南京を占領した後の6週間内で、無抵抗的な中国住民と武器を捨てた兵士を30万人以上を虐殺した。

図(上):戦争中の南京

図(左下):日本軍が南京市民を生き埋めた 図(右下):日本は南京青年を的にし練習した

#### 関連史実

日本軍は幕府山に監禁された 5.7 万人の男女老人幼児を針金で絞って、下関草鞋峡に追い詰め、 銃殺したり、血の海で呻吟した人を銃剣で殺したりした後、全ての死体を燃やした。

12月に、日本「東京日日新聞」は「紫金山下」をテーマにして、以下のニュースを報道した。 日本の少尉の向井と野田が100人斬りの試合を した。野田は105人を、向井は106人を殺した が、どちらが先に100人を殺し勝ったことがわ からないため、150名の中国人を殺害する試合 を再開した。

#### (2) 日本の歴史教科書における「南京事件」に関する記述

2019年現在、日本における歴史教科書の出版社は8つがある。そのうち、「自由社以外の7社は従来どおり「南京事件」を記述している。その7社も「南京大虐殺」、「国際法に反して」などの用語を用いて日本の加害をことさら強調して記す<清水書院・東京書籍・学び舎>と表現を若干穏当にした<育鵬社・教育出版・帝国書院・日本文教出版>に2分類できるが、いずれにしろ「犠牲者数はともかく事件はあった」との立場であることに差異はない」。また、「「南京事件」は学習指導要領で定められた記載が必須とされている事項ではないため、書いていないものを書けとは文科省も言うことができない」と新しい歴史教科書をつくるが HP にて記入している。

## (3) 歴史教科書の関連記述における日中比較

教科書の関連記述における日中比較について、相違点として主に下記の三点が挙げれられる。

- ①用語の違い:中国の「南京大虐殺」と対し、日本は「南京事件」が一般的である。 (ただ、自由社歴史教科書では本文も注釈も言及していない)
- ②犠牲者数の違い:中国は明確に「30万人以上」と記述しているが、日本は「多数」とか「多く」とかで、数字を示していない。
- ③その他、記述分量の違いや掲載した図表の違いなどが挙げられる。

#### (4)小結

歴史教科書の記述や歴史認識において、日本と中国、日本と韓国の間で論争が多い。それは国民間の交流だけでなく、国家間の関係に悪い影響を与えるはずである。真の平和を 実現するには、学術研究や学校教育においては重要な役割を担いべきである。史実を展示 する戦争記念館と学校教育との連携を考える必要がある。

## 4. 戦争記念館と学校の連携

南京大虐殺を含めた歴史を銘記することは日中の相互理解さらに世界の平和を促進する上で重要な役割を果たしている。また、歴史教育は世界観が形成中の青少年に深刻な影響を与えるはずである。以下は戦争をめぐる歴史教育の現状と問題点を先行研究から考察し、その現状を改善する方法の一つとして、南京大虐殺記念館を教育資源としての活用方法を述べていく。

#### (1)戦争をめぐる歴史教育の現状と問題点

「現在の中学校歴史教育を考察してみると、いくつかの重大な欠点がある」と述べ、具体的には、「南京大虐殺教育を十分に重視していないこと、教育実践とのつながりが弱いこと、カリキュラムデザインを慎重に考えないため単純な知識項目の暗記に限定されることで、南京大虐殺の歴史は中学生の心に共鳴することはできがたい」と陳(2015)は述べている。

#### (2)戦争記念館と学校の連携

陸文東(2018)は記念館という教育資源を十分活用されないと指摘し、その背景や理由 として下記のように述べている。

「応試教育」の背景の下で、歴史科目の指導時間が限定されていること、記念館という教育資源に対する教員の知識や理解が十分ではないこと、伝統的な教育評価の影響で記念館という教育資源が重視されないこと、記念館方面が教育上の役割について十分宣伝しないことや宣伝方式が不適切であることなどを挙げた。その現状と背景や理由を考察した上で、陸文東(2018)は学校内の授業と校外の実践との両方面から分けて、記念館と学校との連携を目指した教育方法を五つ提案した。即ち、記念館を見学すること、記念館の関連資料を学校で展覧すること、関連教材を開発すること、参観ガイドを模擬すること、オンラインでの通信教育との五つを提案し、幾つかの教育実践を通して検証した。

## (3) 記念館を教育資源として活用する上での留意点

記念館を教育資源として活用する上での留意点として、ここで一つだけを挙げる。歴史 記憶は未来の平和を追求する力に転換するため、憎み感情を合理的に理解し、正しく導く ことが重要である。李昕(2017)は下記のように述べている。

「憎しみの感情は南京大虐殺の歴史教育における敏感で重要な話題である。どのような感情で歴史を銘記するのか、また、どのような歴史を銘記するのか、どのように南京大虐殺の歴史教育を通して世界平和の願望を実現するのか、これらはすべて南京大虐殺の歴史教育では避けられないのである。人間の生物的本能に基づく憎しみ感情は社会発展への役割が2つの側面がある。南京大虐殺の歴史的記憶を築く上、過小評価されることではない。南京大虐殺の歴史教育における憎しみ感情を合理的に理解し正しく導くことは、正確な歴史観と世界観を確立し、平和を大切にし維持するという根本的な目標を達成することには大変重要である。」

生存者は忘れようとしても忘れられない記憶を持っているが、寛容の心を示している。

右の写真は館内に表記している戦争生存者「李秀英」の言説である。「要记住历史,不要记住仇恨」日本語訳:「歴史を失火有覚えよう、しかし、恨みを覚えてはならない」



#### 参考文献

- ・張連紅(2003)「南京大虐殺と南京市民の記憶」国家社科基金項目 (01CZS007)段階的研究成果、『江海学刊』 2003 年 01 期
- ・李昕(2017) 「恨み感情と記憶-南京大虐殺歴史教育上の感情導引」『南京社会科学』
- ・陸文東(2018) 「記念館資源の中学校歴史教育の実証研究」 揚州大学修士論文
- ・一般財団法人「新しい歴史教科書をつくる会 HP

http://www.tsukurukai.com/hikaku/history4.html

# あとがき

今年度の日本学校教育学会・国際交流委員会主催の「南京・馬鞍山スタディツアー」は、2018年(平成30年)12月26日(水)から、12月30日(日)の4泊5日の旅程で実施しました。2017年度の台湾スタディツアーを2018年5月に実施したことから、2018年に2回スタディツアーを実施することになりました。

当初、国際交流委員会では、2019年春に南京・馬鞍山方面のスタディツアーの実施を予定していました。しかし、現地コーデネーターの牛志奎先生から、「南京・馬鞍山のツアーは、2018年の12月末がベストです」という報告を受け、急きょ2018年12月末に旅程を変更した次第です。準備期間が短いことや委員長の釜田が参加できないこと、会員への周知が間に合うかなど、心配な点は多々ありましたが、副委員長の中山博夫先生と牛志奎先生が中心となり、南京・馬鞍山スタディツアーを2018年12月末に実施することになりました。結果的に参加者は10名となり、スタディツアーとしては適切な参加者となりました。

国際交流委員会が主催した海外スタディツアーは、2011年の韓国スタディツアーを皮切りに、今回で8回目のスタディツアーとなりました。これまで本学会のさらなるグローバル化に向け、スタディツアーの実施と充実に努めてまいりました。2019年度から新体制に引き継がれますが、新たな視点からの国際交流を期待したいと思います。

最後に、この場をお借りして、御礼を申し述べたいと思います。

最初に、南京・馬鞍山スタディツアーの参加者の皆様にです。学会長の佐々木先生には、ツアー代表者として、各種挨拶や参加者へのお心配りをしていただきました。牛志奎先生には、南京市・馬鞍山市でのコーディネートをすべてお願いいたしました。とっても魅力的な学校訪問、南京師範大学での教育研究交流の場を設定していただきました。また、副委員長の中山先生からは、ツアーのとりまとめ代表者として、臨機応変に対応していただきました。その他、ツアーにかかわったすべての皆様、ご協力ありがとうございました。

最後に、深掘印刷所の中曽根様、本報告書の編集にあたり、大変お世話になりました。 毎年のことですが、原稿の集約や編集作業が遅れ気味になり、いつも無理なお願いばかり 申し上げています。しかし、今回も約2週間で、編集作業から印刷製本まで、心をこめて 報告書を仕上げていただきました。誠にありがとうございました。

文責:釜田聡

## 日本学校教育学会タイ・スタディツアーの記録と論考

■ 発 行 2019年8月1日

■ 編 集 日本学校教育学会国際交流委員会 事務局

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷1番地 上越教育大学

釜田聡研究室気付 Tm: 025-521-3549

■ 発行者 日本学校教育学会国際交流委員会

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷1番地 上越教育大学

釜田聡研究室気付 Tm: 025-521-3549

■ 印刷所 深掘印刷所

〒942-0001 新潟県上越市中央2-9-14 1年:025-543-2041